

## 執筆者一覧

梶原三恵子	東京大学大学院人文社会系研究科 教授
河崎 豊	東京大学附属図書館アジア研究図書館 研究開発部門 助教
左藤 仁宏	大阪大谷大学文学部 非常勤講師
高橋 健二	東洋大学文学部 准教授
松浦 高志	東京大学大学院人文社会系研究科 助教

## あとがき

大学の紀要類にも査読が要求されるようになって久しい。本冊子は、東京大学文学部インド語インド文学研究室関係教員による、翻訳や研究ノートなど、かつては紀要類に掲載されたような、査読にそぐわないものの置き場として企画した。そうした文章は個人のブログ等で公開されることもあるのだろうが、商業ブログはいつかはサービスが終了するし、ネット上の情報は時間が経つにつれて見つからなくなることも多い。本冊子も電子書籍であるが、東京大学学術機関リポジトリ (Utokyo Repository) に登録し各ノートに DOI を得ることで情報の保存をはかっている。

河崎「中期インド語ジャイナ教文献を読むために」は、表題の示す諸文献を読む際に必要な文法書や辞書などを、解説付きでまとめたものである。中期インド語文献は、インド文化史に重要な位置を占めるにもかかわらず、本邦には斯学の研究者は多くない。本ノートはこの分野を学ぶ人々の良い手引きとなるだろう。

高橋・左藤「『不死の成就』(*Amṛtasiddhi*) 第1–6章訳註研究」は、表題のテキストの和訳に解説と注を付したものである。サンスクリット語文献の和訳は多いとはいえ、古典インド文化に興味をもつ人が増えない要因となっている。日本語で読めるものが増えることで、本分野への関心が大きくなっていくことを願う。

梶原「ケーララ州中部における個人蔵写本の調査」は、個人蔵のヴェーダ文献写本の撮影と来歴調査について、著者が学んだことの一部を記したものである。文献学者のインドでの調査経験は、内輪の情報交換にとどまることがほとんどのように思う。本稿の内容は初歩的なことで、すでに

時代遅れな情報も多いだろうが、これからインドで写本調査を始める人に少しでも参考になればと願う。

松浦「サンスクリット語文法ノート」は、東京大学でのサンスクリット語文献講読において議論になった種々のトピックについて、各種文法書の要点をまとめたノートの集積である。各ノートの通し番号は、『インド語インド文学拾遺 2024』に掲載されたものの続きである。『2024』で扱われた語も含めた索引が付されているので、利用者には便利であろう。

本冊子が少しでも古代インドの言語と文化の研究に関わるかたがたの役にたてばさいわいである。

編者

*Gleanings of Indian Languages and Literature 2025*

Edited by Mieko Kajihara

© Authors

Published by The Department of Indian Languages and Literature,  
The University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033 Japan

インド語インド文学拾遺 2025

---

2025 年 3 月 20 日発行

編 者       梶原三恵子

発行者       梶原三恵子

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学文学部インド語インド文学研究室

発行所       オリンピック印刷株式会社

---

©Authors 2025   *Printed in Japan*   ISBN978-4-86795-089-0



インド語インド文学拾遺  
2025

*Gleanings of Indian  
Languages and Literature*